

「とこしえの祭司」詩編 110:1-7

イエス様が甦ってくださったことをお祝いし記念するのがイースターです。クリスチャンにとって、最も大切な日と言っても過言ではないでしょう。使徒言行録の時代は、実際にイエス様が十字架で死んだことを目撃した人々が多くいました。目撃はしないまでも、大きな出来事として多くの人が聞いていたはずで、そういう中で弟子たちは、自分たちは「復活の証人」だと言って宣教したのです。一般的に考えると、イエス様が十字架で死んだことを知っている人々の真っ只中で、イエスは甦って今も生きているという話は、一番信じ難い話です。にもかかわらず、弟子たちはイエス様が甦ったということが一番に伝えたのです。その結果、多くの人々がイエス様を信じてクリスチャンとなりました。なぜイエスキリストの復活を、人々は信じることができたのでしょうか。一つには、弟子たちの変化を目の当たりにしたからです。イエス様が捕えられた時、弟子たちは皆逃げ去り、十字架後も部屋に鍵をかけて捕まるのを恐れて隠れていたのです。そんな彼らが、復活のイエス様と出会った後、どんな迫害にもめげず、大胆にイエス様を証ししている姿に人々は衝撃を受けたでしょう、またそれだけではなく、今日の詩編 110 篇の言葉です。日本人の私たちが読んで、復活とどう繋がるかわかりづらいのですが、彼らはユダヤ人です。幼い頃から旧約聖書に触れていました。

「あなたは、メルキゼデクに連なるとこしえの祭司。」(4 節)

このメルキゼデクという人は、旧約聖書に出てくる祭司ですが、その出自も家系も分かりません。さらに、とこしえの祭司ということは、決して死なない、あるいは死んでも甦るという考え方が、ユダヤ人の中に定着していました。これはメシアの預言の詩編です。ですから、ユダヤ人の中では、メルキゼデクとメシアが繋がっていて、メシアは必ず甦ると信じていたのです。そこへ、十字架で死んだはずのイエスが復活したというニュースを聞いて、110 編で預言されているメシアがイエス様であると繋がり、彼らは復活を語る弟子たちの言葉を信じたのです。ですから、弟子たちはイエス様の復活の事実を、宣教の手段として用いたのです。そして、最も大きな理由は、弟子たち自身が、復活されたイエス様に会ったからこそ、復活を大胆に語ったのです。

「ダビデの詩。賛歌。主は、私の主に言われた。」(1 節)

110 編はダビデが書きました。彼は王様です。王の上に立つ主は、父なる神です。しかし一節では「主」が 2 回出てきます。最初の「主」は先に言ったように「父なる神」(ヤハウエイ)です。二つ目は「私の主」ですから、ダビデと同じ、人間となってきてくださったお方、しかも王であるダビデが「主」と呼ぶのは、メシアのことです。ダビデはこの詩編で、メシアは人間として来られ、一度死を経験されるが、復活されるメシア、彼は人間とは違うお方であり、神が人となって、とこしえの祭司となるという約束を歌っているのです。この歌が、実際にイエス様が地上に来られる 1000 年も前に預言されているのですから驚きです。そして、預言通りにイエス様は復活されました。多くの人々の人生がこの事実によって変えられたのです。

聖書の中で最も顕著に、その人生が変えられた人物はパウロでしょう。彼はイエスを救い主と信じるクリスチャンたちを迫害した人です。彼はユダヤ教の中でもエリート中のエリートでした。そんな彼がクリスチャン迫害に向かう途中で、復活のイエスに出会うのです。迫害者パウロは、その日のうちにクリスチャンパウロとなりました。彼にとってイエス様を信じるということは、大きなリスクを抱えることです。何もかもを失うことを意味し、命さえも狙われることになるのです。しかしパウロは、甦ったイエス様と出会ったことが、そんなリスクをはるかに上回る喜びだったので、

「しかし、私にとって利益であったこれらのことを、キリストのゆえに損失と見なすようになったのです。そればかりか、私の主キリスト・イエスを知ることのあまりのすばらしさに、今では他の一切を損失と見ています。キリストのゆえに私はすべてを失いましたが、それらを今は屑と考えています」(フィリピ 3:7、8)

パウロがイエス様をメシアだと信じた瞬間、彼が知識として知っていた詩編 110 編を含め、聖書のすべてのメシア預言が、イエス様とまっすぐに繋がったのです。その時から彼は、命がけでイエス様を伝える人に変えられたのです。イエス様はとこしえの祭司として、今も私たちと共にいてくださいます。とこしえの祭司として、父なる神にとりなしてくださるのです。私たちの弱さも、悩みや苦しみも、全てを理解し、今も生きて働き、私たちに解決を与え力を与え、助けを与えてくださるのです。イエス様は十字架で、私たちの罪を負って死んでくださいました。それによって私たちは罪赦されました。そして死に勝利して甦ってくださいました。そして、その勝利は私たちにも与えられているのです。ハレルヤ!